

2026 年度事業計画

I 施設の設置・運営事業《公益目的事業》

WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営。

☆ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 (厚生労働省WAC認定事業：1990年10月17日付)

☆ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 (厚生労働省WAC認定事業：1994年12月15日付)

※WAC(Wellbeing Community)事業：

1989年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

① 疾病予防運動センター

「ニッセイ・アーク西大和」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC第1号施設)

地域社会との連携・交流

- ・施設運営やイベント運営を通して、入居者および地域住民の健康増進に貢献する。
- ・地域会員数の増大に注力する。具体的には、「透明度の高いプール」、「充実したスタジオレッスン」、「種類豊富なマシンラインアップ」などを軸に、ホームページを中心とするWEB媒体での訴求、チラシ広告の折込やポスティングなどの取組に注力する。
- ・地域の方々の健康増進を視野に入れ、イベント等の情報提供を実施し、地元住民への認知度向上に努める。

「ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸」(ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC第1号施設)

地域社会との連携・交流

- ・施設運営やイベント運営を通して、入居者および地域住民の健康増進に貢献する。
- ・フィットネス会員獲得に注力し、プールや無料卓球エリアの提供・鍼灸治療院の併設、リラクゼーションエリアの設置等、充実した施設であることを訴求し宣伝を強化する。
- ・固定費高騰対策として2026年7月分から月会費の料金改定の実施を予定。
- ・地域の方々の健康増進を視野に入れ、イベント等の情報提供を実施する。

② 診療所

「ニッセイ聖隷クリニック」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC第1号施設付置診療所)

地域社会との連携・交流

- ・緩和ケアから患者に寄り添ったホスピスケアへのスムーズな移行により安心した看取りを実施する。
- ・高齢者に必要とされる医療的ケアの提供体制を整えるため、計画的な研修参加と受講者からの伝達講習により、職場のスキルアップを目指す。

- ・職員から不適切ケアと考えられる、または感じられる具体的な事例を収集し、職場会を通じて共有し、振り返りを実施し、不適切ケアの撲滅を図る。
- ・近隣病院への渉外等を通じて地域患者の受入を強化する。
- ・診療報酬改定に伴い、新規加算取得の検討と算定要件変更に伴う対応を迅速に行う。
- ・居宅支援事業所や地域包括支援センターと密な連携を行い、地域住民の支援に積極的に協力する。

「松戸ニッセイ聖隷クリニック」（ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第 1 号施設付置診療所）

地域社会との連携・交流

- ・入居者が自分らしく終末期まで暮らし続けることを支えるために、看取り・ターミナルケアの質の向上と、疾病予防活動の強化を目指す。
- ・外来・入院診療において、感染対策を実践した安心・安全な医療サービスを提供する。
- ・外来と入院稼働を適正に維持し医療の質と事業継続に必要な収益との両立を図るため、リハビリ件数の増加取り組み、ならびに各種ワクチン接種の周知による接種率の向上を目指す。
- ・地域社会に寄り添う取組として、松戸市民健診の受入れや人工呼吸器患者の災害時避難受入を継続する。

③ 高齢者総合福祉センター

「ふれあいプラザ」（ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 第 2 号施設）

地域社会との連携・交流

- ・エンパシーを意識し、幸福度を高める質の高いサービスの提供と地域のニーズに見合った公益に資する取り組みを実施する。地域住民に情報紙を手配りで配布し、ふれあいプラザの認知度を高める。
- ・講座：内容の充実と収益性を重んじ、参加者の興味をひくような講師の選定を行う。
- ・イベント：質の確保と収益のバランスをとり、多様な活動を展開する。
- ・子ども食堂の運営を支えるアルミ缶回収や、年 1 回開催の「ふれあいの集い」にブース参加し、福祉関係のノウハウを地域に伝達する。

「ニッセイ松戸アカデミー」（ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第 2 号施設）

地域社会との連携・交流

- ・楽しく魅力ある教室やイベントの運営を通して、入居者および地域住民の生きがいづくりや仲間づくり、地域のまちづくりに貢献する。
- ・教室：体験教室やキャンペーンの実施、広告による P R 等を通して、会員増を図る。
- ・イベント：様々な音楽ジャンルのコンサートや、日本生命グループとの共催イベント等、バリエーション豊富なイベントを開催する。

④ 在宅介護サービスセンター

「ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店」

(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 3 号施設)

地域社会との連携・交流

- ・運営指標の可視化を行い、経営意識向上に努めるとともに、職員一人一人が収益アップに繋がる取組みを実践する。
- ・専門性を活かしたサービスの提供と、利用者の変化に気付き、必要な支援は何かを常に考える職員の育成に注力する。
- ・定められている支援内容を理解し、利用者の不利益にならないための支援を実践する。
- ・地域住民向けの福祉用具の貸与及び販売に注力するとともに、居宅事業所と連携し、適切な介護度の見直し等、利用者視点の支援を継続する。

「ニッセイエデン ヘルパーステーション」(ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 3 号施設)

地域社会との連携・交流

- ・近隣地域への積極的なサービス提供を進めるとともに、松戸ニッセイエデンの園入居者への施設基準外、介護保険外サービス対応も継続し、地域と入居者に貢献できる訪問介護ステーションを目指す。
- ・認知症、看取りケアを積極的に行い、質の向上につなげる。
- ・松戸ニッセイエデンの園との連携による入居者への効果的なサービスを継続する。
- ・認知症・看取りケア等、身体介助に特化したサービスの提供を目指す。
- ・地域包括支援センターとの連携に努め、近隣地域へのサービス提供を強化する。

⑤ 有料老人ホーム

「奈良ニッセイエデンの園」(ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 第 4 号施設)

地域社会との連携・交流

- ・パーソン・センタード・ケアの実践とエデン包括ケアシステム「誰一人取り残さない、その人らしく最期まで支える体制」を推進する。
- ・収益改善に向け 4 月より管理費を改定。入居者が知覚できる施設独自の付加価値の向上を目指し、園内健康寿命の可視化を実現する。
- ・安定した経営基盤への寄与：積極的介護予防を推進するとともに、園内健康寿命の可視化を実現する。
- ・介護居室増室やその他の施設整備により、入居者の QOL 向上、事故予防、職員の接遇向上、リスクマネジメント力強化、虐待防止を目指す。
- ・職場間の交換研修と職場還元発表の 100%実施により、複合施設の強みを発揮できる職員の育成への投資と成果の確認を行う。

「松戸ニッセイエデンの園」（ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 W A C 第 4 号施設）

地域社会との連携・交流

- ・各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上に向けて、皆が安心して楽しいと思える生活様式や、入居者・職員（職場）の枠にこだわらない協働企画を実施する。
- ・人材育成として、多様な職場、場面で活躍できる職員を育成し、知識・技術が向上・定着し交流ができる場の検討と実施を図る。
- ・光熱費、人件費、食材費等の諸物価の高騰への対応に取り組み、掃除ロボット導入、超過勤務の削減による経費削減を目指す。
- ・防災、感染 BCP 訓練の強化と内容の見直しに継続的に取り組む。
- ・地域住民との交流の機会増設や、災害時訓練実施に向けた取組みを検討する。

Ⅱ 調査研究事業 《 公益目的事業 》

(1)W A C 事業の展開の中で、高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の 4 分野(以下「4 分野」という)に関するノウハウ・スキルの研究と成果の情報提供

1.W A C 事業に関連して、高齢期の生活向上に関するテーマで調査研究を実施。

テーマ：「ポジティブな終活～自立型施設入居者の終活意識・行動と、人生満足度調査からの考察～」について
終活には「一般的な終活」(財産整理や身体に関する備え)に加えて、やり残したことやライフワークの完遂、家族や社会への恩返しなどの「ポジティブな終活」があると考えられる。このうち自立型施設に入居した人は、前者の一般的な終活は入居時に一度実施していると考えられ、後者の「ポジティブな終活」に取り組みやすい環境下にあると考えられる。一般的な終活を済ませた、またはメドをつけたと考えられる自立型施設の入居者を対象に、ポジティブな終活への取組状況やその満足度を調査し、定年後の生き方への提言や、自立型施設の魅力訴求につなげたい。

2.聖隷福祉事業団・日本老人福祉財団と共催する「有料老人ホーム実践研究発表会」にて、各施設の研究成果を通じて情報共有を行い、入居者に満足いただける施設運営を模索する。

(2)地域住民等への 4 分野に関する情報提供活動の実施

- 1.有料老人ホーム等の高齢者施設の情報提供の一環として、4 分野に関わるテーマによるイベントやセミナーを開催するとともに、高齢者の理解と援助を推進する外部イベントへ参加する。
- 2.11 月の「介護の日」では、奈良・松戸両施設内にて介護イベントを開催し、地域高齢者およびその家族に向けた介護・医療・福祉の知識向上への取組みを継続する。
- 3.次世代を担う全国のこどもたちに、高齢者疑似体験グッズや車椅子などを用いて「高齢者」や「認知症」について学ぶ『体験型授業』のコンテンツを提供する。

Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》

介護事業を担う人材の育成を支援する観点から、介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を目指す学生に奨学金を支給する。

「介護人材不足」解決の一助となるよう、日本語学校に通う外国人留学生で、かつ介護福祉士を目指す学生に対して、介護福祉士養成施設への就学支援金を支給する。

Ⅳ 施設の設置・運営事業 《収益事業等 その他事業 1》

個々人の健康状態及び体力に合わせた適切な指導のもとで、運動、機能訓練を行うための施設を設置、運営し、健康維持、疾病予防に資するための事業のうち、60 歳未満の利用者を対象とするもの。

① 疾病予防運動センター

「ニッセイ・アーク西大和」（ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 WAC 第 1 号施設）

地域社会との連携・交流

- ・施設運営やイベント運営を通して、入居者および地域住民の健康増進に貢献する。
- ・地域会員数の増大に注力する。具体的には、「透明度の高いプール」、「充実したスタジオレッスン」、「種類豊富なマシンラインアップ」などを軸に、ホームページを中心とする WEB 媒体での訴求、チラシ広告の折込やポスティングなどの取組に注力する。
- ・地域の方々の健康増進を視野に入れ、イベント等の情報提供を実施し、地元住民への認知度向上に努める。

「ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸」（ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園 WAC 第 1 号施設）

地域社会との連携・交流

- ・施設運営やイベント運営を通して、入居者および地域住民の健康増進に貢献する。
- ・フィットネス会員獲得に注力し、プールや無料卓球エリアの提供・鍼灸治療院の併設、リラクゼーションエリアの設置等、充実した施設であることを訴求し宣伝を強化する。
- ・固定費高騰対策として 2026 年 7 月分から月会費の料金改定の実施を予定。
- ・地域の方々の健康増進を視野に入れ、イベント等の情報提供を実施する。

V 施設の設置・運営事業《収益事業等 その他事業2》

公益目的事業における介護を必要とする高齢者の家庭生活支援を目的とした施設（在宅介護サービスセンター）のサテライト拠点、また当該施設と関連・連携する医療、介護等各種施設の設置及びこれらの事業。

① 介護老人保健施設

「奈良ベテルホーム」（ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 併設施設）

地域社会との連携・交流

- ・多職種協働で「人生会議」を実施し、看取りケアの充実と在宅復帰支援を推進するとともに、フロア活動の充実に取り組む。
- ・奈良ベテルホームならではの価値提供と他施設との差別化を図る。
- ・職員の専門性を活かす支援体制を整え、職種・フロアの垣根を越えて活躍できる人材育成と多様性を尊重する職場風土を醸成するとともに、職場定着支援およびインシビリティ研修の推進・定着に取り組む。
- ・過去に発生したリスクやコンプライアンス上の課題を風化させない仕組みを構築するとともに、ノーリフトケアの実践と ICT 活用による業務効率化を進め、生産性向上と経営改善、併せて接遇スキルの向上を図る。
- ・河合町や社会福祉協議会との連携、近隣小学校との交流を継続する。

② 訪問看護ステーション

「訪問看護ステーション西大和」（ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 併設施設）

地域社会との連携・交流

- ・その人らしさを最期まで支えるケアの実践を、地域と連携しながら主体的に実施できる基盤を構築する。
- ・小児分野の開拓、医療依存性の高いケアの獲得をめざし地域病院、開業医との連携を強化する。

③ ケアプランセンター

「ニッセイせいいいケアプランセンター西大和」（ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園 W A C 併設施設）

地域社会との連携・交流

- ・利用者一人ひとりの人生に寄り添い、「灯り」となるケアマネジメントの実践、断らない相談支援を行う。
- ・地域の資源となり、地域全体を支える存在としての役割を担い、安心して地域で暮らし続けられる支援体制を構築する。